季刊

# 医大 おらんくの大学病院

［高知大学医学部附属病院］

［Vol.14］

2022年 夏 6月20日
発　行

特集 Long Interview

高知から世界へ!!

## 新体制で臨む地域医療への貢献と先進的医学研究！

今年4月、本院11代目となる病院長を受け継いだ花崎和弘病院長と副病院長の皆さんに、本院の“これから”の指標や取り組みについて話を聞いた。

●おらんくの食事

栄養管理部から「夏」のおすすめ料理

●医大のスタッフ

臨床工学部　夏のイベント案内

# 高知から世界へ!! 新体制で臨む地域医療への貢献と先進的医学研究！

高知大学医学部附属病院は1981年4月の開院以来、革新的な研究や最先端医療で高度医療人を輩出、今や「おらんくの大学病院」として、県民のいのちと暮らしを守る不可欠な存在となってきた。今年4月、本院11代目となる病院長を受け継いだ花﨑和弘病院長と副病院長の皆さんに、本院の“これから”の指標や取り組みについて話を聞いた。

Plofile

高知大学医学部附属病院
病院長
**花﨑 和弘**
*Hanazaki Kazuhiro*

【職 歴】
1984年
新潟大学医学部医学科卒業
1984年～2006年3月
信州大学外科、米国ベイラー医科大学外科、関連病院勤務
2006年4月～2022年3月
高知大学医学部外科学講座外科1 教授
2008年4月～2012年3月
高知大学医学部附属病院 副院長（兼務）
2012年4月～2014年3月
高知大学医学部附属病院 臨床工学部長（兼務）
2012年4月～2022年3月
高知大学医学部附属病院 顧問（兼務）
2014年4月～2020年3月
高知大学医学部附属病院 手術部長（兼務）
2017年4月～2020年3月
高知大学医学部附属光線医療センター長（兼務）
2018年4月～2022年3月
高知大学医学部 副医学部長（兼務）
2022年4月～現在
高知大学医学部附属病院 病院長

**開院から40年余り、高知県の医療を第一線で担ってきた本院ですが、新体制の中、内部的にもさまざまな変化があるでしょうね。**

**花﨑▶** ええもちろん。本院では3つの大きな取り組みを考えています。まず、「ブランド力の向上」です。これから退職を迎える診療科教授の後任に、これまでの人脈を生かし、全国からArt（臨床能力）・Science（研究力）・Hummanity（人間力）のバランスがとれた優秀な教授を迎え入れることです。

また、本学には世界屈指の海洋コアセンターや国内初の光線医療センターもあり、これらの強みを生かした研究力の向上を目指しています。

高齢者医療の先進県である高知県は、2025年には4割が65歳以上になると見なされていて、本院が積極的に取り組んできた高齢者に優しいロボット手術の適応拡大と普及の推進をはじめ、後期高齢者に顕著なサルコペニアの病態治療研究やがんゲノム医療、COVID-19などの新規感染症に対しても率先して取り組んでまいります。

さらには、医学生や医療系学生対象の卒前・卒後教育に力点を置き、地域医療発展に貢献できる医療人の育成に務めます。

**なるほど、本県に特化した地域医療や高齢者医療に配慮した取り組みが「おらんくの大学病院」らしいところですね。**

**花﨑▶** その通りです（笑）。「地域医療への貢献」は、高齢化が進む高知県には外せない取り組みです。本院は多くの診療科でポテンシャルの高い医療人育成に務めていて、医師の派遣については、病院単位で計画的に配置しています。

近年、本院の救急車等受け入れ数は年間2,000件を超え、南海トラフ地震発生時の災害拠点病院としても機能させなければなりませんので、災害時における最大規模の被害を想定した最先端の災害・救急医療体制を万全にしています。

**2024年からスタートするのが「医師の働き方改革」ですが、この制度についてのお考えを聞かせてください。**

**花﨑▶** ここ数年、コロナ禍で多忙をきわめる医師たちの姿が報道されてきました。とりわけ、大学病院では診療以外に研究や教育にも時間を費やすため、ハードな労働が長時間続くわけです。

そこで本院は、この4月より医師の勤務形態チェック機能を導入し、働き方改革を進めています。つまり時間軸だけでなく仕事内容の質や量でも評価し、本人にしかできない仕事に特化して働いていただき、多職種連携でサポートし合うチーム医療です。 またそれに伴い医療事務クラーク、専門・特定看護師、専門技術者などの導入など、医療の質や安全性の向上に務めます。

これらの構想は、医学部を所有する本院の発展なしに実現不可能です。これからも県民に最良の医療を提供できる体制を整備し、県民から信頼される患者さんファーストの「おらんくの大学病院」を職員一丸となって創ってまいります。

（取材／2022.4.25）

副病院長
（医療安全担当）
**上羽 哲也**
*Ueba Tetsuya*

## より質の高い高度医療環境の整備を目指す！

高度に細分化・複雑化する医療環境の中で、医療の安全は基本原則です。しかしながら、医療行為には予期しない事態が発生する危険性が潜んでいます。個人に依存した事故防止では限界があるため、患者さんが安心して医療を受けられるよう、病院全体のシステムを整備することを目的に、平成13年に「医療安全管理部」を設置しました。

医療安全管理部は、予期しない事態を可能な限り未然に防ぐため、専従のスタッフが常駐して院内で発生するさまざまな事案を調査・分析し、発生予防や再発防止のための策を検討しています。さらに医療安全管理部のみではなく、院内各部署に医療安全管理の担当者を配置し、職員への教育や研修も行っています。

これからも、患者さんが安心して、質の高い高度医療を受けられる環境を整えることを目標に、病院全体として医療の安全管理に取り組んでまいります。

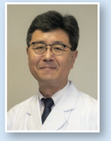
副病院長
（総務担当）
**河野 崇**
*Kawano Takashi*

## 大学病院の使命を心に刻み、全人的医療へ取り組む！

本年4月より総務担当副病院長を拝命いたしました。若輩者ながら、責任の重さに心構えを新たにしているところです。顧みて12年前、徳島大学、高松赤十字病院、ウイスコンシン医科大学を経て母校に戻り、麻酔科医として従事してまいりました。その間、医療現場はandante（歩くような速さで）からallegro（速い）へと急激に変化し、大学病院として地域に密着した安全で質の高い全人的医療の提供、各診療科の連携による円滑な運営の必要性を痛感してきました。

また同時に人間味豊かで有能な医療人の育成、先進医療の提供、医学研究成果の還元などの使命も担っております。

今後は手術室の運営以外にも、内科系教室やパラメディカルな部署からもご意見をいただき、職員の教育研修体制の一元化と実質化、医療の質向上のための組織づくり、医療情報関連の整備、入退院支援の充実、経営支援体制の充実などに一層励んでまいります。さらに、職員の労働環境整備が急務であり、病院長を補佐する新たな立場から取り組んでいきたいと考えています。



副病院長
（経営・地域医療連携担当）
**内田 一茂**
*Uchida Kazushige*

## 超高齢化の高知県で全国の模範となる医療体制づくりを！

私は、平成4年に高知医科大学を卒業し、第一内科に入局後一旦関西へ移りましたが、令和元年から再び本院の消化器内科で勤務しております。

高知県は全国第2位の高齢化県であり、超高齢化社会の真っ只中を進んでいます。この状況の中で本県の医療がどのような道を辿るかは、全国から注目されているところでもあります。

さて高知大学医学部附属病院は今年で開院41年を迎え、現在病院再開発が進行しています。また本院は、高知県の“がん診療連携拠点病院”であり、そのためがん以外の難病に対しても大学病院として先進医療を提供しなくてはなりません。同時に地域の中核病院としての役割も担っていることから、これまで以上に県内医療機関との連携を強固にしていく必要があり、さまざまな研究はもとより、高知県の医療を支えながら若い医師を育てていくという重要な使命も課せられています。

これからも全国の模範となるべく、地元高知県の医療のために、全力を尽くしていきたいと考えています。

副病院長
（病院実務担当）
**多田 邦子**
*Tada Kuniko*

## 患者さんに寄り添った質の高い医療サービスの提供を！

私の主な業務は、院内で設置されているサービスの質向上のための組織および委員会のさまざまな課題について検討し、患者さんが安心して療養に専念できる環境をつくることで、受診・入院時などの不安を少しでも軽減し、診療がスムーズに進められるよう環境を整えていく役割があります。

また、診療環境には施設設備・物品などのハード面をはじめ、職員の接遇・対応や診療の流れなどのソフト面など、さまざまな要素があります。これらの要素を検討し、改善に向けて活動していきたいと考えています。そのためには職員自身が気づきを持ち、内部から発信していく意識が重要であり、また外部からの公正な評価を求めて第三者評価機構等の審査も取り入れながら、時代に添ったサービスの質を高めていかねばなりません。

私どもにとって、利用される患者さんおよびご家族等からの声はもっとも貴重なご意見で、これまでにも多くの改善のきっかけを与えていただきました。

今後も多角的な改善のために、全方向にアンテナを向けて柔軟に検討していきたいと思います。

副病院長
（危機管理担当）
**西山 謹吾**
*Nishiyama Kingo*

## 全ての新規感染症、災害医療に対応可能な中核病院として！

危機管理担当として、現在は新型コロナウィルス感染症対策を感染管理部、新型コロナウィルス対策チームとともに行っています。免疫機能の低下した患者さん方を守るために、国も“すべての医師は新規感染症に対応できるように”と舵を切っています。

また高齢化社会を迎え持病のある患者さんの急激な増加で、臓器別の診療体制だけでは対応が難しくなり、各科風通しのいい病院運営が必須です。

大学は専門医療に特化していましたが、超高齢化社会を迎え、専門医は総合医の上に成り立つ必要性を感じています。高知大学で初期臨床研修を行う医師は2019年度は23名でしたが、2022年度は28名に増加し、救急外来で研修する研修医も2019年度の7名(※)から2022年度は34名(※)(他院からの13名(※)を含む)となり、これまで以上に活気が出てきました。今後は災害医療にも力を入れていきます。

本院は高知県の広域災害拠点病院になっており、南海トラフ地震では高知県医療機関の中心的役割を果たしていかねばなりません。災害対応の基本を理解し、病院災害対応訓練を行うのは私たちの責務ですから、現状に満足せず、常に新たなことに挑戦していきます。

（※）は月単位の延べ人数

## 令和6年度（2024年度）竣工を目指し、新病棟の建設が始まります！

### さらなる病院機能の充実・強化を

近年、働き方改革などで深刻な医師不足や地域医療の崩壊が起こり、県民に向けた安心で安全な医療供給体制の構築が、最重要課題となっています。

高知県の中核的医療機関である本院は、人口減などを踏まえた病院機能の充実・強化を主眼とした基本理念の下で、高齢化社会における医療ニーズを充す病院再開発を計画しています。

### 大学病院再開発に当たってのコンセプト

- 入院患者さんの安全確保や南海トラフ巨大地震など大規模災害時の医療継続のため、既存病棟を免震構造の新病棟として改築する。
- 個室を増やすなど、患者さんのニーズやプライバシーに配慮した入院環境の質的向上を目指す。
- 先々の医療進歩を見据え、慣重な平面計画を行う。

栄養管理部から 夏 のおすすめ料理

# サーモンの塩こうじ漬け押し寿司

カラダの活性化に効果あり!? 食欲が低下する夏場に絶対オススメ！

大葉は刻んで酢飯と和えても
風味良く仕上がります。

## 【材 料】（1人前）

| | | |
|---|---|---|
| サーモン刺身用 | | 50g |
| 塩麹 | | 15g |
| 酢飯 | 米 | 200g |
| | 酢 | 15g |
| | 砂糖 | 8g |
| | 塩 | 2g |
| | ガリ（みじん切り） | 5g |
| | すりごま | 5g |
| 大葉 | | 1枚 |
| ガリ（付け合わせ） | | 適量 |

Ⓐ

## 【作り方】

①前日に、サーモンに塩麹をまぶしラップをして冷蔵庫で一晩寝かせておきます。

②炊きたての米飯200gにⒶの材料を合わせ十分に冷ましておきます。

③大きめのラップの上に①を置き、その上に半分に切った大葉を並べます。サーモンからはみ出ないように酢飯を置き、ラップをかぶせます。まきすで型を整えて10分程度冷蔵庫に入れます。

④ラップをはずし食べやすい大きさに切り分け、器に盛り付けて大葉とガリを添えて完成です。

私達が担当しました！

調理師
川崎 章介
かわさき しょうすけ

管理栄養士
政岡 紗矢香
まさおか さやか

| 栄養量（1人分） | |
|---|---|
| エネルギー | 550kcal |
| たんぱく質 | 18.9g |
| 脂質 | 10.5g |
| 炭水化物 | 88.0g |
| 食塩相当量 | 2.3g |

## 一言MEMO

サーモンの特徴的な色は「アスタキサンチン」という“海のカロテノイド”と呼ばれる赤色の色素。

アスタキサンチンはエビやカニ、イクラ、タイなどにも多く含まれ、優れた抗酸化作用、抗炎症作用が認められている上、「EPA」、「DHA」が豊富で、美容やアンチエイジングほか、目のピント調節効果など体全体の活性化が有効です。

体もお肌も夏バテ知らずで若々しく!!

# 臨床工学部
Clinical Engineering Department

部長 井上（いのうえ） 啓史（けいじ）

## 医療機器のスペシャリストとして、病院の高度かつ先進的な医療の実施を支えるべく、医療機器の安全使用の推進・実現に取り組んでいます。

臨床工学部では、病棟、外来、手術部、集中治療部、透析部、血管造影室、周産母子センターなどで使用される数多くの医療機器について、臨床工学技士による専門性の高い知識と技術で、操作・保守管理等を実施しています。また、医療安全管理部、感染管理部、看護部、RCT（呼吸ケアチーム）などの、他部署・院内チームとの連携を精力的に行うことで、院内の安全管理、感染管理にも力を入れたチーム医療を構築し、本院の質の高い、安全な医療の提供を支援しています。

### 臨床工学部の体制

当部は、井上啓史部長（泌尿器科学講座教授）のもと、臨床工学技士21名、事務職員1名で構成され、医療機器の保守管理、生命維持管理装置の操作、医療機器のトラブル対応など、365日24時間体制で業務を実施しています。担当業務は大きく6部門に分かれており、「ME機器保守管理部門」、「手術部部門」、「血液浄化部部門」、「人工心肺部門」、「カテーテル・ペースメーカー部門」、「集中治療部門」と、各部門で専門性を活かした高い医療技術を提供し、本院の安全かつ高度な先進医療の実現に向けて寄与しています。

### 特徴と方針

当部では、メーカー認定や学会認定を受けた臨床工学技士が従事しており、医療機器を常に適正な状態で使用できるよう取り組んでいます。また、独自の医療機器保守管理システムを導入し、約2,400台の多種多様な医療機器に対して、年間約27,000件の保守点検等を実施しています。また、医療機器の安全運用が病院全体で確保されるよう、他部署と密な連携を図りながら、職員を対象とした医療機器研修会を毎年200件以上実施しています。

ここ数年の新たな取り組みとして、コロナ禍においても、医療機器の安全な運用を継続できるよう、対面による研修会だけでなく、研修動画を活用した研修システムの構築に取り組んでいます。医療機器の取り扱い方法やトラブル対応に関する動画を作成し、必要な方が、必要な時に必要な内容の研修を受講していただけるよう、現在は、貸出タブレットを用いて、誰もが医療機器安全管理をより身近に感じ、実施できる環境作りを目指し、取り組んでいます。

人工呼吸器の動作確認

シリンジポンプの使用後点検

## 夏のイベント案内 ●7月～9月●

**RKCラジオ「気になる健康ファミリードクター」**

【放送予定日】
毎週月曜日 午前10:35～(8分間)
※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。

| | |
|---|---|
| 22年6月27日(月) | 腎癌の最新の薬物治療［泌尿器科／辛島　尚］ |
| 22年7月4日(月) | がん患者さんの口腔ケア［歯科口腔外科／久保 絵里］ |
| 22年7月11日(月) | 体に優しい肺癌の外科治療（仮）［呼吸器外科／田村 昌也］ |
| 22年7月18日(月) | 様々ながんに対する放射線治療 ー肺がん編ー［放射線治療科／木村 智樹］ |
| 22年7月25日(月) | 小児の便秘症治療 最近の知見［小児外科／藤枝 悠希］ |
| 22年8月1日(月) | 腫瘍の診断・リキッドバイオプシー［病理診断科／村上 一郎］ |
| 22年8月8日(月) | 南海トラフ巨大地震に向けた災害リハビリテーションの取り組み［リハビリテーション部／永野 靖典］ |
| 22年8月15日(月) | 遷延性コロナケア外来［総合診療部／武内 世生］ |
| 22年8月22日(月) | 新型コロナウイルス感染症の予防と治療 ～ワクチンと薬を中心に～（仮）［薬剤部／八木 祐助］ |
| 22年8月29日(月) | 未成年の自殺［児童青年期精神医学／高橋 秀俊］ |
| 22年9月5日(月) | 骨盤機能センター（尿失禁・骨盤臓器脱）について［骨盤機能センター／清水 信貴］ |
| 22年9月12日(月) | 病気を予防する生活習慣［家庭医療学／新井 大宏］ |
| 22年9月19日(月) | 失明に直結する黄斑部の病気［眼科／山城 健児］ |

季刊 医大 おらんくの大学病院［高知大学医学部附属病院］
［Vol.14］ 2022年 夏 6月20日 発行

高知大学医学部附属病院 広報係
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
Tel.088-880-2723
http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html

おらんくの大学病院第14号アンケートご協力のお願い
右記の2次元バーコードからアンケートにお答えください。